

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和5年9月22日(金)
午前9時25分 開会
午前10時21分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 竹中 理
副委員長 小森 弘詞
委 員 岡本 昭治、清水 寛、
須山 泰一、前田 敦司、
義本 みどり
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 (別紙のとおり)
- 6 傍聴議員 福田 嗣久
- 7 事務局職員 次長 坂本英津子、主事 菅谷祐一
- 8 会議に付した事件 (別紙のとおり)

交通網問題対策等調査特別委員長 竹中 理

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2023年9月22日(金) 9:30～

場 所：第3委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 委員会所管事項の現況について

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) 委員会調査中間報告書（案）について

(4) 管外行政視察調査報告書（案）について

4 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委員】

2023年9月22日現在

職 名	氏 名
委員長	竹 中 理
副委員長	小 森 弘 詞
委員	岡 本 昭 治
委員	清 水 寛
委員	須 山 泰 一
委員	前 田 敦 司
委員	義 本 みどり

【当局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
都市整備部長	澤田 秀夫	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
建設課長	富森 靖彦	竹野振興局 地域振興課参事	小林 昌弘
建設課参事	堀田 政司	日高振興局 地域振興課参事	上野 和則
都市整備課長	久田 涉	出石振興局 地域振興課参事	川崎 隆
都市整備課参事	堂垣 俊裕	但東振興局 地域振興課参事	小川 一昭

10名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局主事	菅谷 祐一
議会事務局次長	坂本 英津子

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項

2023. 09. 22

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関すること
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関すること

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関すること
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関すること

3 路線バス等地域公共交通に関する事項

- 市内公共交通網の充実並びに利用促進に関すること

4 鉄道交通に関する事項

- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関すること

午前9時25分開会

○委員長（竹中 理） それでは、おはようございます。定刻よりも早くお集まりいただきましてありがとうございます。

これから交通網問題対策等調査特別委員会を開会いたしたいと思います。どうかよろしく願います。

まず、委員長挨拶は、今日ちょっと雨が降っております、しっとりしておりますけれども、常任委員会も終わりました、今日、一応もうすぐ1年、この委員会、たつわけですけれども、前回以降の報告等を受けながら、また、皆さんのご意見をお聞きしたいなというふうに思っておりますので、よろしく願います。

それでは、協議に入ります前に、傍聴の依頼を受けておりますので、許可をしたいと思っております。よろしく願います。（「よろしいですか」と呼ぶ者あり）はい。

それでは、協議事項に入ります。

協議事項に入ります前に、連絡をさせていただきます。

委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用して、発言の最初に課名と名前をお願いいたします。

まず、（1）委員会所管事項の現状についてを議題といたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダー、交通網問題対策等調査特別委員会、2023、9月22日の中に配信しておりますので、資料をご覧ください。

それでは、建設課、都市整備課の順で説明をお願いしたいと思います。

はい、どうぞ。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課から説明させていただきます。

まずは、2ページをお開きください。北近畿豊岡自動車道の事業促進になります。

北近畿豊岡自動車道では、現在、豊岡道路と豊岡道路（Ⅱ期）、この2つの事業を進めていただい

ております。

まず、豊岡道路ですが、延長は2キロということで、但馬空港インターチェンジから、先日、6月12日に新しくインターチェンジの名称が決まりました豊岡出石インターチェンジまでの区間となっております。2023年度につきましては、改良工事、それからトンネル工事、橋梁の工事等が進められております。トンネルは、2箇所ありまして、仮称ですが、戸牧トンネル、佐野トンネルの2箇所であり、既に戸牧トンネルは貫通しております、佐野トンネルにつきましても、今年の7月14日に貫通しております。また、橋梁につきましては、5つありまして、現在3つの橋が完成しているという状況になっております。

また、豊岡道路（Ⅱ期）につきましては、2020年度に事業化されております、今年度については、調査、予備設計、それから用地買収を行っております。用地買収につきましては、用地交渉等の事務を豊岡市が国から委託を受けております、今年度については、当初は戸牧と岩井の用地買収ということでしたが、宮井区も追加ということで、現在用地買収の事務を進めております。用地買収の関係ですが、現在把握しております関係地権者数につきましては46名で、筆について78筆ということで、約3万3,000平方メートルの買収をしていくということになっております。

続きまして、3番ということで、毎年行っております早期実現促進大会ですが、今年度につきましても、8月5日の土曜日に但馬3市2町、800人規模で開催をさせていただきました。議員の皆様にもご参加いただきまして、盛り上げていただきありがとうございました。

4番の要望活動です。こちらも毎年のことですが、財務省、国交省、近畿地方整備局等に毎年要望しており、今年度につきましても、10月の25日から26日にかけて行う予定としております。

引き続き、豊岡道路（Ⅱ期）の早期着工、全線早期完成に向けて、近隣市町とも連携しながら、積極的な活動を展開していきたいというふうに思っ

おります。

続きまして、3ページをお開きください。山陰近畿自動車道の事業促進です。山陰近畿自動車道につきましては、浜坂道路Ⅱ期、竹野道路、城崎道路の3つの事業が現在進められております。

浜坂道路につきましては、新温泉町の区間になりますが、そちらにつきましては、現在トンネル工や橋梁の工事が進められております。トンネルは6つあり、現在1つのトンネルが貫通済みと聞いておりますし、橋梁も5橋あり、2橋が完成していると聞いております。

次の竹野道路ですが、こちらは、2021年度に事業化をされておまして、今年度は、調査、設計、当初は用地買収もということでお聞きしてたんですが、予算等の関係で、用地買収は今年度されないというふうに聞いております。用地買収は、来年度から実施予定というふうにお聞きをしております。

城崎道路につきましては、今年度から事業化ということになりまして、今年度は調査ということで、具体的には、地形測量等を中心にするというふうに聞いております。

次の早期実現促進大会ですが、これは北近畿豊岡自動車道と併せまして、先ほど説明したとおりに実施をしておりますし、要望活動についても、こちらにも北近畿豊岡自動車道と併せまして10月25日、26日で行う予定としております。

7番、その他ということで、こちらにも毎年開催されております山陰近畿自動車道整備推進決起大会です。こちらは、鳥取県、京都府と一緒にっており、現在、11月15日に開催予定ということで聞いております。

引き続き整備促進に、取り組んでいきたいと思っております。

4ページにつきましては、2023年度の北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道の具体的な要望事項となっております。この要望事項に基づいて、10月25日、26日、それから11月15日に要望や決起大会等の活動を進めてまいりたいと考えております。

建設課からは以上です。

○委員長（竹中 理） はい、どうぞ。

○都市整備課長（久田 渉） それでは、5ページをご覧ください。前回、6月の特別委員会は空港の視察でしたので、実質、4月以降の動きについて説明させていただきたいと思っております。

まず、空港の利用促進と利便性の向上についてです。

大きい項目1つ目の運賃助成や小学生の社会見学支援による利用促進につきましては、4つ上げておまして、空港運賃の助成事業、小学生の飛行機体験搭乗事業、はたちになる君へと題しました新成人の記念事業並びに小学校の社会見学事業など、利用促進事業を実施しております。8月末現在の利用者数等は記載のとおりですが、ちなみに、今年度4月以降の空港の利用率につきましては、どの月も今のところ50%をクリアしており、先月の8月に至っては68.4%、4月からの平均利用率も58.5%と、コロナ禍前の約90%近くにまで回復してきているような状況です。

次に、大項目2つ目の関係団体と連携した東京直行便の開設に向けた取組では、例年のことではございますが、7月の21日に鹿児島県のJACと東京都のJALのほうに要望活動を実施してきております。

それから、最後、3つ目の項目ですが、他団体や航空会社との連携したPR活動の実施につきましては、JALと本市の共同プロモーション事業として行う新たな取組で、この10月の28日に大阪市内でディナーイベントの開催を予定しております。具体的な実施目的としましては、本市が誇る魅力的な農産物や海産物をJALの持つブランド力、それから、JALのファンの方などに対して、効果的にPRを仕掛けることで、特産品はもちろん、豊岡の知名度の向上も図られ、今後、但馬－伊丹間の利用促進につなげていくことに加えまして、JALと農協の持ってます農協観光さんが共同でJJエリアセンターという組織があるんですけども、そこで旅行商品の造成につなげていくといったようなこと

を検討するというものです。

それから、次の6ページをご覧ください。バス交通の充実と利用促進についてです。

まず、大項目1つ目の主要バス路線の維持を図るための運行補助の実施につきましては、こちらも、例年のことではありますが、記載のとおり、各路線、それから、車両購入に係る国県市ごとの補助金申請事務を今進めておるところでございます。

続きまして、大項目2つ目、地域の実情に応じた新たな交通モードの検討につきましては、竹野南地区の新たな交通モードの実証実験について記載をしております。詳細な実証運行の内容は、(ア)から(エ)に示しておりますが、ちなみに、8月末までの利用者は、現在のところ430人となっております。あくまでも実証実験ということで、今後も引き続き地元の方々とも協議を重ねて、最終的な交通モードを決定したいと思っております。

続きまして、3つ目の市街地循環バス、コバス、市営バス「イナカー」、地域主体交通、チクタクの運行支援につきましては、記載のとおり路線や地域で運行しております。

続いて、大項目4つ目、運行事業者、地域と協働したモビリティマネジメント及び利用者確保に向けたイベントの実施については、4つ上げてございます。まず、アの竹野地域における地域交通のあり方勉強会の開催についてです。現行の路線バス、竹野下陰線やイナカーの竹野海岸線に加え、竹野南地区のデマンドの実証運行を含め、今、竹野地域における交通を取り巻く環境が変化しつつある中、将来を見据え、地域の実情に合った持続可能な地域交通の在り方について、地域の皆様と一緒に考える機会ということで、昨年度、日高地域でも実施しましたが、これに引き続き、竹野地域につきましても、この6月、7月、9月で、現在3回開催をしております。主な意見としては、いずれ、イナカー、それから路線バスの継続運行は困難になるだろうというふうなことを想定した上で、やはり現在のチクタクやデマンド運行している交通等で対応するようなことを複合的に考えることでしかないのではな

いかなどの意見が出ておりました。

それから、次のイの市の職員の管内移動に係る公共交通利用回数とウのノーマイカーデーの販売枚数、こちらについては、例年どおり記載のとおりではございますが、今回、このノーマイカーデーにつきましては、市民の方が周知をかなりされてきたのか、昨年度の現時点に比べて1.7倍の販売数となっており、今後の利用者の増大にある程度期待をしているところです。

それから、次のエになります。路線バス等のキャッシュレス化実証実験事業としましては、内容としては、昨年度のことですが、地域に大きな衝撃と不安を与えたJR赤字ローカル線の公表を受けまして、県を中心に利用促進策を検討するJR赤字ローカル線の維持・利用促進検討協議会が組織をされました。今年の2月には、この協議会を受けて、一定の今後の取組方針であるとか、利用促進策等が取りまとめられたところです。その中で、この山陰本線につきましては、交通連合の設立等を視野に、バスと鉄道の相互連携施策や交通や他分野との連携施策に取り組むこととされたところです。この取組方針の中から、バスと鉄道相互のキャッシュレス化に先立ちまして、今回、バス事業者だけに特化した距離別や定額運賃、それから、通学、通勤のいわゆる定期券、あとは、観光施設の入場料などのキャッシュレス化を、全部じゃなくて、一部のバス路線での実証実験を考えております。この事業、JRの利用促進の関係なんで、本来ならば鉄道交通で記載すべきところなんですけど、今回、先ほども言いました、今回は取りあえずバスの事業で特化したということなんで、あえてこのバス交通のほうで記載をさせていただいております。

それから、この実証実験につきましてはの事業主体等、細かいところは記載のとおりではありますが、本事業の実施に係る補正予算として、今回の9月議会で344万2,000円を提案させてもらっております。

バス交通は以上です。

それから、最後に、8ページをご覧ください。鉄

道交通の利用促進についてです。

まず、こちらにつきましても、大きい項目の1つ目、JRローカル線の維持存続と利便性向上のための機運醸成と要望活動、つきましては、(1)の山陰本線の維持存続に向けた取組について、進展がございました。まず、アの山陰本線利用促進策創出ワークショップの開催です。このワークショップにつきましては、地元観光協会や住民団体に加えまして、芸術文化観光専門職大学の学生さんたちで構成されております。5月から、4回開催されております。内容としては、6班編成のグループで討議をしておりまして、延べ109人の方にこの4回で参加していただいております。いろいろな意見が出されて、前回の4回目には、それぞれ班ごとの発表で、最終的な利用促進策の取りまとめが今行われています。

それから、次のイの乗って守ろう！竹野駅ペイですが、これは、先ほど言いましたワークショップの構成メンバーの中に竹野観光協会の方もおられます。このワークショップの中でいろいろなヒントを得る中で、今回のこの案を発案された取組です。内容としては、切符の購入金額に対して約2割程度のクーポン券を配付するものです。クーポン券は、今のところ、竹野地内の飲食店等で使用が可能ということになっておりまして、8月から実施されております。今のところ、開始1か月たっていますけども、1万枚の枚数に対して、5,300枚となっております。1万枚なんで、100万円分に対して53万円、非常に好評だとの報告を受けておるところです。

それから、ウとエのデジタルスタンプラリーや駅周辺活性化モデル事業につきましては、県のほうが事務局となってやっておられる但馬地域鉄道利便性向上対策協議会が実施した事業を記載しております。

それから、続きまして、オの竹野駅の乗車券簡易委託販売業務、こちらについても例年のとおりですが、コロナ禍前の水準には回復していないまでも、先ほどの竹野駅ペイも影響もありまして、8月を境に急激に販売枚数が伸びており、今後について期待

をしておるところです。

それから、最後、カになります。協議会等での協議、検討ということについてですが、これは、昨年度のJRの公表を受けまして、ワーキングチームが組織され、今後の取組や利用促進が取りまとめられました。その中で、この協議会とワーキングチームは単年度で終わることではなく、複数年かけて引き続き開催していくことが必要だというような方向性が示されて、関係する会議の名称を、山陰本線活用協議会というふうな、ワーキングから名前を変えまして、それぞれに担当者会議や首長会議、最終的な利用促進協議会等、段階的にその取組方針に沿って継続検討をしておるところでございます。

それから、次、(2)と(3)につきましては、記載のとおりです。2のJRへの要望会につきましては、昨年までは福知山支社と大阪本社に、2回に分けて要望に行ってましたが、昨年の秋に組織改編がありまして、今年からは神戸の兵庫支社のほうに要望箇所が変更となっております。

それから、最後の大項目2つ目の京都丹後鉄道の運行支援につきまして、(1)の要望活動につきましては、記載のとおりでございます。2につきましても、施設整備、運営支援等の補助がございますが、例年の支援で記載のとおり、3項目の支援に係る補助金の申請業務を進めているところなんです。

都市整備課からは以上です。

○委員長(竹中 理) 説明は終わりました。

説明を受けまして、委員の皆様から意見とか、質疑等ありましたら、よろしくお願ひします。

清水委員。

○委員(清水 寛) 建設課のほう、北近のほうの関係でちょっとお聞きするんですけども、今、産業用地の整備が進んでいる中で、但馬空港インターと豊岡出石インター、両方、入り口というか、あると思うのですが、どちらのほうに近いんですかね。といいますのが、日高インター側の要は空港のループしているところからそっちに入る道って、結構角度があって、産業用地だと大型トラックとかが入ってくる場合に、あれ、一発で回れるんかなって、素人

目ですけども、信号もない場所ですし、そういう意味では、ちょっと気になったもので、近い側が主になるのかなと思ったもので。

- 委員長（竹中 理） 建設課長、富森課長。
- 建設課長（富森 靖彦） 但馬空港インターチェンジと豊岡出石であれば、豊岡出石のほうが近いと思いますし、将来的には豊岡出石から但馬空港までの路線が新しい県道但馬空港線になり、但馬空港インターチェンジから、新たな、但馬空港線までは、市道になりますので、幹線道路といたしましては、豊岡出石インターチェンジからの道路になると思いますし、距離も近いと思います。以上です。
- 委員長（竹中 理） 清水委員。
- 委員（清水 寛） 恐らくなんですけども、カーナビなどで距離で出された場合に、どっちが出るのかなというのがちょっと気になる部分もありますし、初めて来られるときに、要は空港のほう側から入ろうとする場合は、何かトラブルが起きたりすると怖いなど。特に見通しがもう一つ悪い場所ですから、大型のトラックがもたもたしてて、車が突っ込んだりということがあると、ちょっと大変なことになるかと思しますので、その点、また気にしていただいたらというふうに思います。以上です。
- 委員長（竹中 理） ほかにありませんか。岡本委員。
- 委員（岡本 昭治） 5ページです。これは確認です。但馬空港の利用促進の中で、下のほうですね、小学生飛行機体験ということでもありますけど、これって、もう既に券を小学生に全部配っておられるんですか。その中で利用されているのが144件ということでしょうか。
- 委員長（竹中 理） 久田課長。
- 都市整備課長（久田 渉） 学校のほうに照会をかけて、事業として取り組んでおるといことです。ただ、実施後のやり取りはあると思います。
- 委員長（竹中 理） 岡本委員。
- 委員（岡本 昭治） 個人的に行かれるのかなと思ったけど、今学校という話があったんですけど、学校で利用されている学校って、幾つかあるんでしょ

うか。

- 委員長（竹中 理） 久田課長。
- 都市整備課長（久田 渉） 今この小学校ということは、把握できてないんですけども、比較的児童さんの少ない学校になっております。
- 委員（岡本 昭治） そうですね、飛行機の。
- 都市整備課長（久田 渉） はい。座席数は48人なので、大体15人から半分以下ぐらいで行かれていますと聞いております。
- 委員長（竹中 理） 岡本委員。
- 委員（岡本 昭治） JRの兵庫県支社へ要望ということが何回かされてるんですけども、この結論というのは大体何年ぐらいに出るとか、そういうのは何か決まってる、決まってるわけじゃないんでしょうけども、あるんでしょうか。
- 委員長（竹中 理） 久田課長。
- 都市整備課長（久田 渉） 要望書を出したからといって、答えは返ってきません。ちなみに今回、10月の23日に行くんですけども、主なポイントとしては、令和3年度や4年度にダイヤ改正で減便になったものを復活してほしいであるとか、今年1月にありました城崎の大雪の関係の計画運休に対して、沿線自治体への影響も配慮してほしいというようなところを特出しにして、要望するようになっております。
- 委員長（竹中 理） 岡本委員。
- 委員（岡本 昭治） その要望に対して、回答いただくというのも当然どこかのタイミングであるんですか。いや、ここはもうできませんか。それとも、それがずっと続いていくという形になるのか。
- 委員長（竹中 理） 久田課長。
- 都市整備課長（久田 渉） いわゆる提出しっ放しで、JRさんのほうからは明確な回答というのは得られてないのが実情だと思います。以上です。
- 委員（岡本 昭治） 分かりました。
- 委員長（竹中 理） ほかにありませんか。須山委員。
- 委員（須山 泰一） 先日の建設経済の委員会でも少しお聞きしました。バスの問題ですけど、鉄道も

高速道路も空港もあって、一番生活に密着しているのがバスだと思うんですけど、以前、本会議でも聞いたんですけど、免許返納者の半額割引、運賃の割引制度があったと思うんですけど、これが路線バスだけでなく、イナカーにも適用されてるということで、よろしかったでしょうか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 委員言われましたとおり、手続は取ってるんですけども、まだ今はできてなくて、料金とかダイヤ改正をするのには、地交会といって地域公共交通会議という交通関係者が出席してもらっている会議にお諮りをさせてもらって了解を取るということで、今その手続をしまして、できれば10月の間に手続を済ませて、でき次第に、イナカーとチクタクの両方を進めておるような状況です。以上です。

○委員長（竹中 理） 須山委員。

○委員（須山 泰一） 分かりました。ありがとうございます。

もう1点、バスなんですけど、7月にたじま母親大会というのがあって、そこで、公共交通の懇談会があって、豊岡市からも中田さんでしたか、ちょっと違ったかもしれないんですけど、来られてて、豊岡の公共交通の施策について話されました。ほか、朝来、3市2町、全部来られて話されてて、そこで、豊岡市の施策の説明の中で、竹野の今3回やられている住民との会議ですか、その中では路線バスをなくすというような方向も今検討中ですということをおっしゃいました。それについて、具体的な話が分かれば教えていただきたいのと、もう一つは、そこに参加されてたのは、3市2町からの住民が、多くはないんですけど、参加されてた中で、やはり注目されてたのは朝来市のあこか、前、長寿の郷で但馬のたくさんの議員さんとか、集まれて、豊岡市からも参加されてた地域交通の在り方についての、何ですか、あれは、大きな集会があった際にも、そこでも関学、関西大学か、学生さんがあこかを注目してたんですけど、このあこかというのは、65歳以上が1か月500円で乗り放題で、1年5,000円で乗り放題、

すごい制度があるんだなと思って、それが、この前の母親大会の分科会でもちょっと出ました。僕も行ったんですけど、そういうのがどこでもできたらええなというふうに、そのときも改めて思ったんですけど、豊岡市としてはいかがでしょうか。

○委員長（竹中 理） 2点ですね。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） まず、竹野地域の路線バスの廃止の件なんですけども、今さっき言いました竹野下陰線があって、浜辺にイナカーが走っていて、竹野南のほうで、デマンドで実験しているんですけども、今の竹野駅から森本、江野までの間で竹野のエリア内はもう著しく乗車数が少なくて、豊岡市としてもその路線は100%、市が補助金を出してやっています。国のお金も県のお金も入っておらず、市のお金だけで支えておるような路線になってますんで、当然そこを守りというのは将来的に難しいので、かといって、そこにチクタクとイナカーを走らせようと思うと、交通空白地にしないとそういったものは導入できないということから、住民の人からは、それだったら、逆に路線バスをもう廃止をして、そこにイナカー、ないし、別の交通モードを入れてはどうだというような話の中から、委員が言われておるような話が出ていました。

2点目については、今のところは、率直に言うと、全然、策としては考えてございません。

○委員長（竹中 理） 須山委員。

○委員（須山 泰一） 路線バスなくすというのも、すぐに出てくる話ではないということでもいいですか。どうでしょうか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 当然、市だけではなくて、全但さんとも協議をしなくてはなりません。ただ、全体的な構想を市のほうが地元と進めているというようなところの情報とか、方向性は常に全但さんとも共有しながら、時期は見て、そういった判断をしなければならぬことになるかも分かりません。以上です。

○委員長（竹中 理） 須山委員。

○委員（須山 泰一） ちょっと僕も資料とか見ないと、それ、どうなんか、今言えないですけども、でも、デマンドか定期便かだったら、やはり予約したときだけ走るデマンドより、定期便が僕は走ってほしいと、お金はかかるんですけどね、そういうのは思ってるんです、ふだんから。あこかのほうも、あこかじゃなくて、名前もええ名前にして、ぜひ豊岡でもお願いしたいです。以上です。ありがとうございます。

○委員長（竹中 理） ほかにございませんか。
前田委員。

○委員（前田 敦司） 説明もろもろありがとうございます。

ちょっと私のほうでお伺いしたいのが、僕も公共交通、特に電車とか、飛行機とか、もちろんバスもなんですけど、存続してほしいなと思っているんですけど、その中で、観光とか、教育とかというところの連携というのができないかなと思っていて、既に会議をされているのかなとも思うんですけど、例えばなんですけど、地元、市民の方が利用するという部分の公共交通はもちろんなんですけど、観光で来られた方がいかに公共交通機関で来てもらえるのかみたいな政策というのも、打ち方によっては打てるのかなというふうに思ったりしてます。

あと、教育委員会的な所管になってくると思うんですけど、自然学校で豊岡市内の子供たちがいろんなところに行かれるんですけど、その中で、バスを借り上げて移動しておられると。その経費が結構高くついてきていて、何とかならへんかなみたいなことを言っておられて、それなんかも公共交通機関を、例えば地元の子が地元のバス、電車に乗って移動して、地元を知っていくというふうになっていけば、利用率も上がっていくし、経費も抑えることができるし、いいんじゃないかなと思ったりもするんですけど、そういった観光政策課だったりとか、教育委員会だったりとかと意見交換したりとか、利用促進するために、そういった会議とかというのは設けておられるかどうか、お聞かせいただけたらと思うんですが。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今協議を進めさせてもらってますのは、学校教育課のいわゆるスクールバスに関わるところにつきましては、統廃合もある中で、スクールを単独で走らせるのか、今ある、路線バスや、イナカーでの対応の可能性の有無などについて、協議はしております。ただ、観光関係との協議はやってないんですけども、先ほど言いました、今回のキャッシュレス化につきましては、豊岡駅から出石までバスに乗ってもらって、例えばおそば屋さんでの飲食を、ピッとかざすだけで行けるような形を今回しようと思っておりますので、観光客の方が来られるかは、今回調査をやってみないと分かりませんが、そういったことを手がかりになって、今後発展していけばいいと思っておりますが、実際には教育との会議の場でしか持っておりません。

○委員長（竹中 理） 前田委員。

○委員（前田 敦司） 分かりました。現時点ではされてないということなんですけど、本当に城崎温泉なんかは公共交通機関使って来られる旅行者の方も結構多いという、なかなか多いという数字が出てると思いますし、インバウンドの旅行者の方がこれから増えていくということを見込んでいっても、公共交通機関で来てくださいねというか、というキャンペーンも一つなのかなというのと、何か引っかかっているところ、利用がなかなか伸びないというところが、引っかかっているところがあれば、それを解消するためにも、実情を聞いたり、アイデア出しみたいなところなんかの会議なんかはぜひしていただけたらうれしいなというふうに思います。これは要望です。以上です。

○委員長（竹中 理） ほか、ありませんか。よろしいですか。

清水委員。

○委員（清水 寛） バス、鉄道も飛行機もそうなのかもしれないですけど、バスの利用の中で、乗降者数ということが調査の中では大きいかなと思うんですけども、その意味では、費用負担という部分も当然あるんですけども、基本的な話でいえば、や

はり乗降者数というのが存続したりしていく上で一番大きな目安になるものですかね。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 委員言われた、とおりで、例えば国の補助金をもらおうと思ったら乗降者15人、県の補助金でたしか5人というのがあります。この基準をクリアできない部分を市の補助金でカバーするのが、基本となっています。以上です。

○委員長（竹中 理） 清水委員。

○委員（清水 寛） そういう意味では、どんな形であれ、利用者がその数がいるということを生み出すことがまず公共交通を支えていく一番大事なポイントかなというふうに思います。そういう意味では、先ほど須山委員が言われたような話にも近いんですけども、例えば免許を返納される方は、もうその瞬間から非常に足が困るわけですけども、それが半額助成ありますよということではなく、やはり例えば年齢をそういう意味では75歳以上というような形にして、路線も限定する形も、今キャッシュレスもあるんで、そういう形の路線で、例えばその区間に関しては無料ですよにさせたほうが、半額というお金が要するというよりも、確実にそれは使ってもらうきっかけになるのかなと思うんです。たくさんの方が乗っている公共交通機関が走っているというだけで、場合によったら、ほかの人も、使う人が増えれば、当然利便性についての話を聞くことも増えるわけですから、もうちょっと認知度も上がってくる。場合によったら、公共交通を支えるということもあるんですけども、いわゆる高齢者の足を確保する、福祉に寄与するというような面もいろいろ考える余地があるのかなと思うんですけども、そういうことについて、これまで研究されたりとかということはあるんでしょうか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 詳細まで確認したか、検討したかと言われると、しておりませんが、今言ってます将来的な課題として、今の例えば介護タクシーとか福祉チケットもこの公共交通と同じようなところで、協議はしているというか、深めて

いかなければならないなというようなことは話しております。なので、今言われておる内容まで踏み込んでということは今のところはございませんけども、そういった方向で考えております。以上です。

○委員長（竹中 理） 清水委員。

○委員（清水 寛） 当然、介護タクシー、福祉タクシーという民間事業者の方というのも、大切な足の支えてくれる事業者ではあるんですけども、やはり一番大きな公共交通機関を支えてくれる事業者の、その方たちが事業をしていくことが一番大きいポイントだと思いますし、恐らく何らかの形で補助とか、そういうものがあるのかもしれないんですけども、ちょっと私も詳しくは知ってないんですけども、ただ、直接その事業者に補助をするよりも、利用者がそこを使ってくれる、その結果、その方を通じてお金が回っていくというような仕組み、ワンクッション入るんですけども、そういう間接的な補助のようなイメージで、しっかりと利用者も含めながら使ってもらうことをしながら、やはり支えていくという発想が必要かなと。なかなか直接的なもののほうが多くて、福祉側でいえば、福祉の利用者にチケットを配って、もしくは、何ぼで使ってもらえるということもあるんですけども、そうではなく、やはり広く公共交通機関を使ってもらうために、年齢とか、全部をすると、なかなか費用的には大変になるので、そこは様々な理由をつけながらになると思うんですけども、そういうこともしっかり検討してもらいたいと思います。いま一度、その点についていかがお考えでしょうか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 例えば飛行機の関係は、乗られる人に限定して助成してますけども、路線バスは乗られる方には補助をしておりません。今、委員が言われましたけど、バス事業者の運行費に対しての後ろから補助金を当て込んでますので、乗っていただく方にさらに直接的な支援という考え方はありません。例えば、市が補助制度をやめれば、全但さんも料金を多分上げることになりますんで、考え方としては、今を残しつつというところになっ

ていくと思うんです、もう事業者さんが今のままではもちませんので。だから、現段階では、そこに上乗せしてというところは考えてはおりません。以上です。

○委員長（竹中 理） 清水委員。

○委員（清水 寛） 特に今の高齢者の方、団塊の世代の方たちは、もうそもそももう80に近づいているということから、やはりその一番大きな世代の人たちが免許を返納しなければならない、恐らく自覚として返納しなければならないなと思ってる部分が多々あるかなと思うんです。その中で、今チクタクとか、イナカーも半額助成をというような話も、65歳以上ということではあるんですけども、やはりもう一つ上の世代の人たちが、だから、もう出なくなってしまう、家に引き籠もってしまうということではなくて、やはりしっかりとこの方たちが動ける環境をつくっていくことというの、市民を支えていく、暮らしを支えていくという目線からしたら、大きなポイントかなと思いますので、今までなかなかこの件に関しては、課がそもそもが違うとか、いろいろあると思うんですけども、いろんな点から検討を重ねていただきたいというふうに思います。以上です。

○委員長（竹中 理） ほかにありませんか。

なければ、僕、いいですかね。

ちょっと1点だけ、これ、一般質問でもしたんですけど、一般質問では福祉人材の話はしたんですけど、今全国的にも、バスとか、いわゆる路線バスとかの人材不足というのがあって、この間も日本バス協会さんが2024年問題でしたっけ、あると。3万人不足とか、この間、ニュースで言っていましたけどね。そういった例えば労働時間とかの関係で、非常に運転手を確保するのが難しいという中で、市として、そういったことの配慮みたいなのはどういうふうにされるのか、考えておられるのかということをお願いします。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 言われますように、来年の春から働き方改革ということで、残業時間が

950時間だったりとか、1日当たりの休憩時間を1時間多く取りなさいとかいうことで、タクシーやバスやトラックの運転手さんに特化した話なんです。市のほうとしては、特別今、民間に対してはどうかということも考えてないんですけども、先ほども言いました、まだ決定じゃないんですけど、例えば65歳、定年延長になって、大型免許を持っておられる消防署のOBの方とか、現業の方とか、そういう方で、イナカーとかスクールバスの運転ができないかというような構想はあって、職員さんの身分のこととか、勤務時間帯のこととか、いろいろあります。ただ、確実にドライバー不足になりますので、その辺をうちのほうで何とかカバーできないかというようなことは考えております。以上です。

○委員長（竹中 理） 分かりました。ありがとうございます。

今、先ほど職員の身分ということがあったんですけど、市としては、例えばそういう事業者の方のそういう職員の運転手の方が確保しやすいような配慮をぜひお願いしたいと思います。ちょっと所管が違うんであれですけど、先ほど言われたスクールバスでも、お聞きすると、通常は3年契約のところ、1年契約でされたりとかしてるというのをちらっと聞くんです。そうすると、運転手を1年契約で契約したときに、確保するのがもうとっても難しいんだというの、現場の声というか、聞いてますので、市としてやっぱりそういうところを、先ほどスクールバスを単独にするのか、イナカーをお話ありましたけど、もうそういうのは早くちょっとしていただいて、事業者さんの迷惑かからないように、ぜひお願いしたいと思いますけど、いかがですか。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） そういうことで検討させていただきたいと思えますし、補足で言います。国のほうの考えでは、例えばタクシーの運転手は、今2種の緑ナンバーでしか運営ができないんですけども、例えば1種の免許で白タクでも、今まで経営しとった緑ナンバーの会社の中に1種の人でも働くことができるようなことを検討していて、2種

だけじゃなくても経営ができるとか、そういった部署を同じ会社の中でつくってもいいような策を練られとるような、方向がありますよということがございます。以上です。

○委員長（竹中 理） 分かりました。ありがとうございます。

澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今回9月の補正予算でも、イナカーについて、3年間の債務負担行為を取らせていただいています。それはなぜかという、先ほど竹中委員がおっしゃられたように、複数年契約することによって運転手が確保できるということを事業者のほうからお聞きもしておりますし、2023年度、今年度は、1年契約なんです、イナカー。これまでは複数年契約しておったのを、財政のほうから一回単年度で切ってやるべき違うんかというような意見が出て、今年は1年でやってるんですけど、非常にバス事業者のほうから相当ご意見をお聞きして、そんなんだったら運転手が確保できないということで、やはり長期間の担保を取ること一つの事業者のほうの支援になるというふうを考えております。

○委員長（竹中 理） それでは、ないですかね。よろしいですか。

それでは、質疑を打ち切りたいと思います。

それでは、以上で委員会所管事項の現状については終わりますが、この際、当局側のほうから、一応、今委員会が、この1年間の最後になりますので、何か一言ありましたら。当局の方、何かありますか。特にはないですか。

じゃあ、委員のほうを代表して、副委員長のほうから一言。

○委員（小森 弘詞） 副委員長を務めさせていただきました小森でございます。

今日、来たときに、委員長のほうから、今日最後なんで、挨拶をお願いしますと言われまして、何が最後なんですかというぐらい、今日の委員会が最後という認識がないぐらいあっという間に、この1年終わらせていただくことができました。多くの質疑

の中でもありますように、市民にとっても大変身近なものがこの交通網であったり、道路でありますので、今後も我々議員もですし、多くの市民の声を聞きながら、より住みやすい、暮らしやすいまちの整備に向けて、また皆様と共に頑張っていきたいと思っております。1年間どうもありがとうございました。

○委員長（竹中 理） ありがとうございます。しっかりまとめていただきました。

それでは、以上です。

ないようですので、当局の職員の方は退席をいただいて結構です。お疲れさまでした。ありがとうございました、1年間。

それでは、継続します。

（2）番、委員会の運営方針についてです。

委員会重点項目のSide Books上の本日のフォルダーの次第等の資料4ページに配信をしております。

重点調査事項について、これも引き続き変わっていないんですけども、ご意見等がありますか。特にはよろしいですかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） 特にご意見がないようですので、当委員会の重点調査事項は、このとおりにしたいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） ご異議がないようですので、そのように決定しました。

続いて、（3）の委員会調査中間報告書についてを議題といたします。

先ほども言いましたように、間もなく1年間、任期を終えようとしておりますので、9月の定例会の閉会日に、この特別委員会として中間報告をさせていただきます。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員（岡本 昭治） 内容についてですか。

○委員長（竹中 理） ですね。

異議がないようですので、そのように決定しました。

内容ですけれども、ちょっと皆さんにメールで配信をしました中の分の中間報告の分で、若干、その後、協議して変更したところがあるので、お知らせします。

3ページ。皆さんにメールで送ったやつの真ん中辺の、真ん中辺ですね、真ん中の丸の山陰近畿自動車道のところの上から6行目ですね。2021年度には竹野道路が事業化となり、測量調査、設計が進められていると。ちょっと次、こういうふうに変えます。城崎道路については、2023年度の直轄権限代行にて新規事業化されましたということで、以前は、城崎道路においては、2022年度、国の直轄権限代行実施の検討を経て、2023年度に新規事業化されたということで、ちょっと文章のほうをそういうふうに変えております。それ以外は、あと、何も変わってませんけれども、メールで事務局のほうから送っていただいたとおりで、何も変更等も返事もなかったようなんですけども、これで中間報告をさせていただいてもよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） あと、変更ないと思いますので、中間報告については、正副委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） 異議はないようですので、そのように決定しました。

次に、（4）の管外行政視察調査報告書を議題といたします。

こちら、メールのほうで過日配信をしておりますけれども、変更等は聞いておりませんが、この際、もし何かありましたら、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） じゃあ、お諮りいたします。

管外行政視察調査報告書については、正副委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） 異議がないようですので、そのように決定をいたしました。

なお、先ほど言いましたように、この中間報告と

視察報告につきましては、定例会の閉会日に発表のほうというか、私のほうからしたいと思います。閉会日に皆さんにも配信をしたいと思いますので、ご承知おきください。

この際ですので、最後ですので、何か発言ありましたら。何もありませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹中 理） この1年間、私もさせていただいて、この交通網はやっぱり地域住民の方の本当足をしっかりこれからも引き続き市としてお願いしたいなというふうには思ってますが、我々もまた注視をしていきたいというふうには思ってます。

竹野とかも、そういった実証実験も進めますし、視察行きました自動運転とか、チョイソコいながわとか、あの辺なんかも参考にしていきながら、市のほうにもまたどんどん議員のほうからいろいろ提案したり、やっていけたらなというふうには思っております。

以上をもちまして委員会を閉会をしたいと思います。1年間ありがとうございました。お疲れさまでした。

午前10時21分閉会
